

特集1 日本の若者意識の現状～国際比較からみえてくるもの～

調査結果のポイント

- 日本の若者は、諸外国の若者と比べて、自身を肯定的に捉えている者の割合が低い傾向にあるが、日本の若者の自己肯定感の低さには自分が役に立たないと感じる自己有用感の低さが関わっていること
- 日本の若者は、諸外国の若者と比べて、外国留学や外国居住を望む者の割合が低い傾向にあること
- ボランティア活動の経験者や自分自身に満足している者の中には、外国留学を希望する者が多い傾向にあること

1 はじめに

- 内閣府では、我が国と諸外国の若者の意識を比較することにより、我が国の若者の意識の特徴及び問題等を把握し、子供・若者の育成支援に関する施策の参考とするため、平成30（2018）年度に「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」（図表1）を実施した。
- 今回の特集では、この調査の結果から見えてくる日本の若者の意識を、人生観関係、国家社会関係、職業関係、学校関係の4つの項目について、諸外国の若者の意識と比較し、日本の若者の意識の特徴等について紹介する。

図表1 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成30年度）の概要

調査目的	我が国の若者の意識と諸外国の若者の意識を比較することにより、我が国の若者の意識の特徴及び問題等を的確に把握し、子供・若者育成支援施策の検討の参考とすることを目的とする。		
調査領域	(1) 人生観関係 (2) 国家・社会関係 (3) 地域社会・ボランティア関係 (4) 職業関係 (5) 学校関係 (6) 家庭関係		
調査対象国	日本、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデン		
調査対象者	各国満13歳から満29歳までの男女		
調査時期	平成30年11月～12月		
調査方法	インターネット調査 (調査会社に登録しているモニターに対し、インターネットを利用して調査票を配信し、回答を依頼) ※13～14歳については、保護者に調査協力の可否を確認後、協力可能と回答した子供を対象 ※15～17歳についても、保護者に調査協力を依頼し、その子供から回答を得た場合がある。		
回答数等	国名	回答数	使用言語
	日本	1,134	日本語
	韓国	1,064	韓国語
	アメリカ	1,063	英語
	イギリス	1,051	英語
	ドイツ	1,049	ドイツ語
	フランス	1,060	フランス語
スウェーデン	1,051	スウェーデン語	

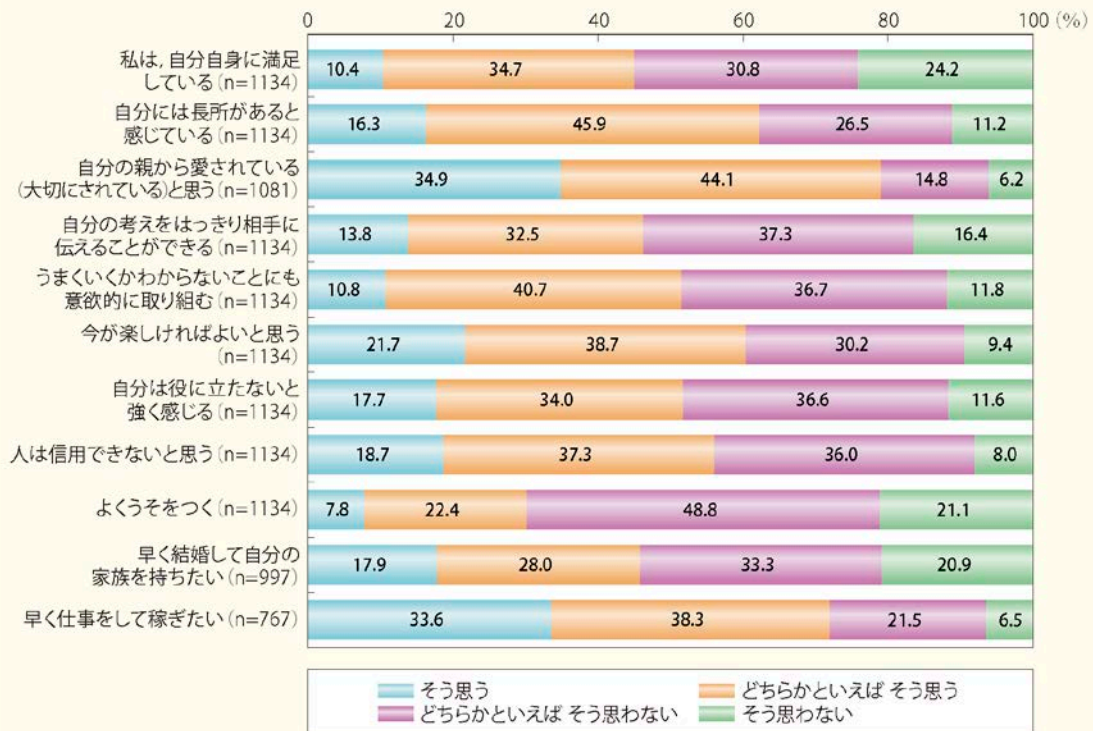
(注) 昭和47（1972）年以降5年ごとに行われてきた「世界青年意識調査」の後継となる調査として、平成25（2013）年以降、調査方法・対象・項目などを見直して実施。

2 人生観関係

(1) 自己認識

○日本の若者で、自分自身のイメージについて、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合は、「自分の親から愛されている（大切にされている）と思う」の79.0%が最も高かった。次いで高かったのは、順に、「早く仕事をして稼ぎたい」の72.0%、「自分には長所があると感じている」の62.3%であった。（図表2）

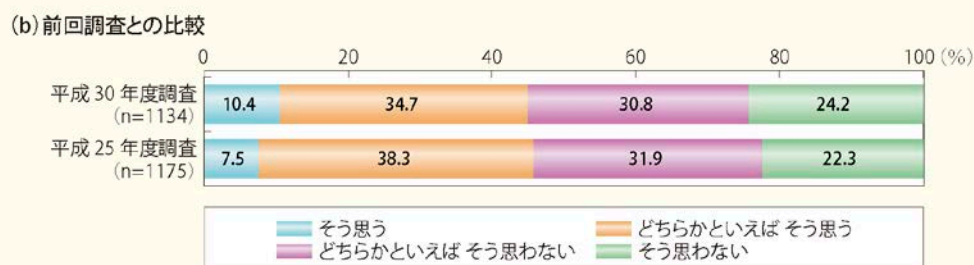
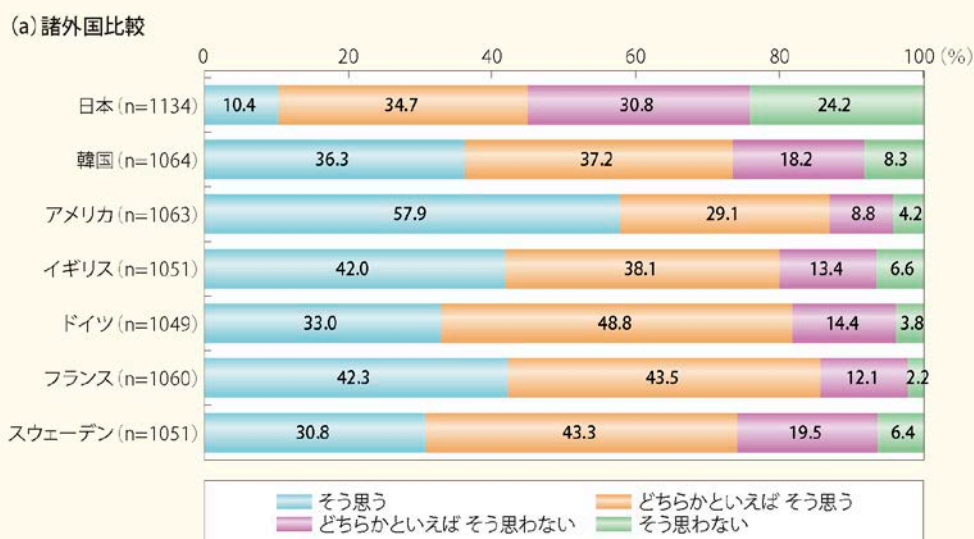
図表2 自分自身のイメージ



○また、日本の若者で、自分自身のイメージの中で、「自分自身に満足している」と「自分には長所があると感じている」に「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合は、それぞれ45.1%と62.3%であったが、この割合はいずれも同様の回答をした諸外国の若者の割合と比べて低かった。このうち、日本の若者で、「自分には長所があると感じている」に「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合は、平成25年度の調査時よりも6.6ポイント低かった。(図表3、図表4)

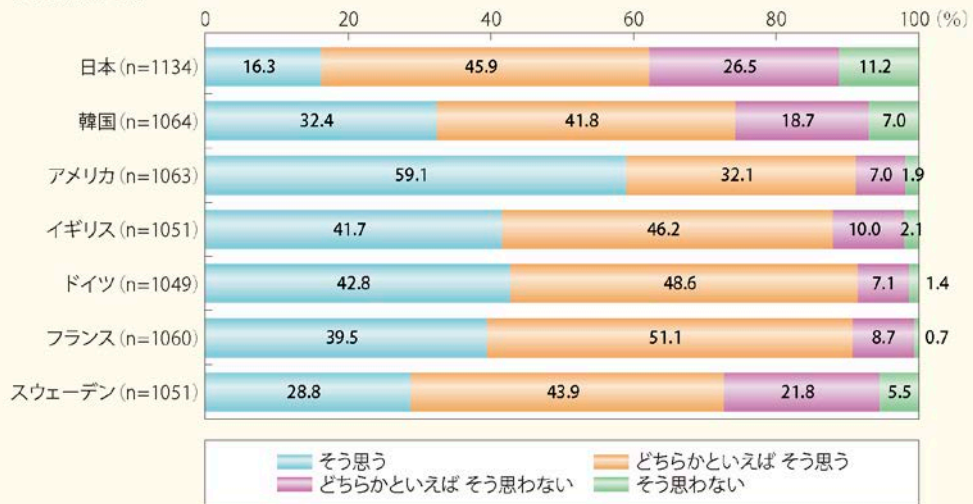
○このように、日本の若者は、諸外国の若者と比べて、自分自身に満足していたり、自分に長所があると感じていたりする者の割合が最も低く、また、自分に長所があると感じている者の割合は平成25年度の調査時より低下していた。

図表3 自分自身に満足している



図表4 自分には長所がある

(a) 諸外国比較

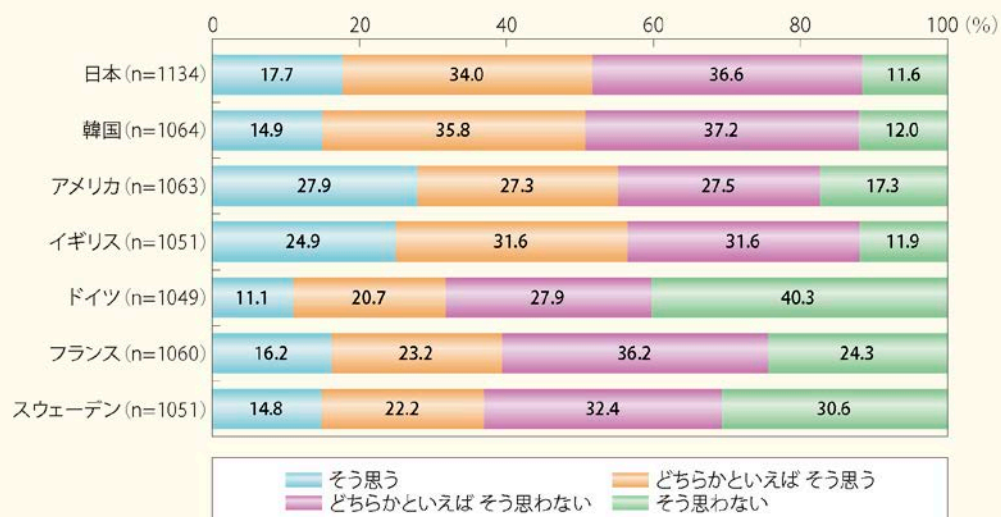


(b) 前回調査との比較



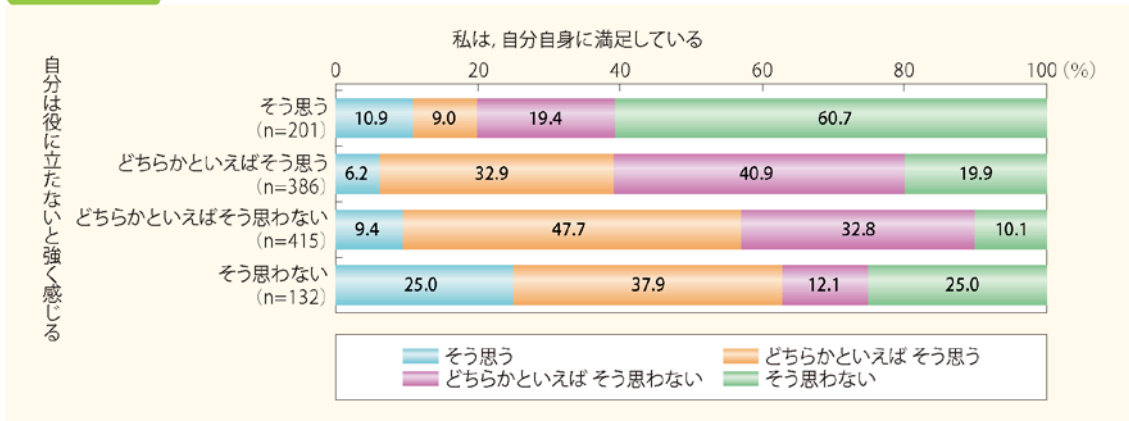
○一方、日本の若者で、「自分は役に立たないと強く感じる」に、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合は51.8%であり、これはドイツ、フランス、スウェーデンに比べると高いが、アメリカ、イギリスよりは若干低く、韓国と同程度であった。（図表5）

図表5 自分は役に立たないと強く感じる



○自分自身への満足感とその他の自分自身のイメージとの関係についてみると、日本の若者は、「自分は役に立たないと強く感じる」に「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者ほど、「自分自身に満足している」に「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合が低かったが、諸外国の若者に同様の関係は認められなかった¹。(図表6)

図表6 自分自身への満足感とその他の自分自身へのイメージとの関係



○このように、日本の若者は、自分が役に立たないと強く感じている者ほど自分自身に満足している者の割合が低かったが、同様の関係は諸外国の若者の意識には認められなかった。

¹ 北海道大学大学院教育学研究准教授 加藤弘通氏の分析結果による。